

分科会報告 ①-2

1. コーディネーター 伊藤 真知子
2. テーマ 地方から発信する「豊かな暮らし」
3. 参加者数 9名 (宮城県 1名 山形県 7名 福島県 1名)
4. ディスカッション内容

はじめに

まず、参加者から自己紹介および活動紹介をしていただきました。東北の女性の生き方を発信したいと活動している大学生、ものづくりクラブでフィルムケースを再利用した LED ライトづくりを岩手県など被災地の小学校で子どもたちに教える活動をしている男子高校生など、若い世代 3 名を含めて、さまざまな職業、活動を行っている多様なメンバーが参加されました。

コーディネーターから、まず「豊かな暮らし」とはどのような暮らしなのか、お金や物はもちろん大切だが、地方であればこそ「豊かさ」をどのように考えるか、そのうえで、それらをどのように発信していけばよいかという順に話し合っていきたいと思いますと提案しました。

内容

① 「豊かな暮らし」とは

- ・食べ物に不自由がないこと、それだけでなく、美味しいこと、新鮮であること、地産地消、伝統野菜を伝え活用していくことなどが大切である。
- ・働き方のロールモデルがあることが重要であると考え。地方で働くには、オンリーワンであることや、チャレンジしていくことが求められる。
- ・人と人のかかわり、コミュニケーション、交流のできる場があることが大切である。地方では、人口が多過ぎないため、会いたい人に会いやすい状況にある。
- ・2 枚目の名刺を持つことが大切である。職業(学業)とは別の社会的な活動者としての名刺を持つことが、新しい自分をつくる、高校で社団法人を立ち上げ実践している例や、看護師として働きながら、ミス(美を体現する人)を育てる活動などが紹介された。
- ・心が豊かであることが重要である。認め合い支え合う関係性をつくる、自ら幸せと感じる心を子どもたちのなかに育む、あたりまえだけれど「足るを知る」ささやかな幸せを尊ぶ、人と比較するのではなく自分のメジャー(ものさし)をもつなどについて発言された。

② どのように発信するか

- ・20 代女性、転職したい人、東北で働きたい人向けに Web マガジンを発信している。働き方のきっかけや選択肢を広げることに繋がりたい。TOHOKU WOMAN で検索してほしい。
- ・高校生には、Twitter やマンガの活用も有効である。
- ・プラットフォームの形成や、フューチャーセンターなどの新しい動きがある。

まとめ

地方では、人が少ないがゆえに、同じ方向を向いている人たちが出会いやすいと考え、交流の場やプラットフォームづくりを進めて「豊かな暮らし」を実現していきたいという思いで一致しました。積極的に発言してくれる学生さんたちからおおいに刺激を受け、多様な年代、職業、活動のだれもが、ささやかであっても発信していくことを心に刻んだ分科会となりました。